

第6回

藤井もとゆきの 国政メモワール

前参議院議員／薬学博士 藤井 基之



○学制改革から平成年代まで

図1は、学制改革により新制大学が発足した1949年（昭和24）以降、2022年（令和4）までの74年間の「薬学部（学科）数及び入学定員」を示します。うち平成年代・2019年までの71年間については、その推移を概略3期に分けることが可能です。

1期；1949年（昭和24）からの約30年間は、日本の戦後復興、経済成長、人口増加、進学率上昇等を受け、薬学教育も戦後の成長期にあったと言えます。1958年（昭和33）には、

東京大学医学部薬学科が医学部より独立し、薬学部薬学科が誕生します。

図中に記載の通り学校数19、入学定員1,565人でスタートした新制薬学教育は、昭和50年代始め1977年（昭和52）には学部数は44に、入学定員は7千人を越す規模に増加しました。**2期**；1977年（昭和52）からの約20年間は見かけ上大きな変動はなく推移します。しかし、医薬分業元年と称される1974年（昭和49）以降の医薬分業進展の第一ステージ・第二ステージのまっただ中です。2000年（平成

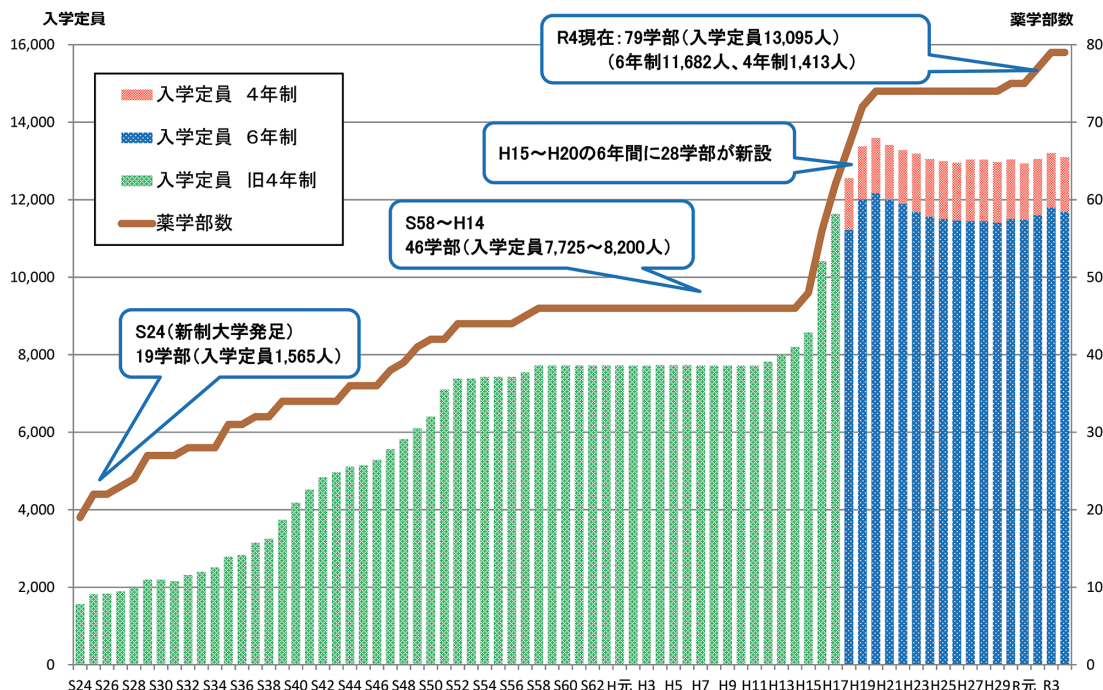


図1 薬学部（学科）数及び入学定員の推移（文部科学省 薬学系人材養成の在り方に関する検討会資料より）

12) の実入学者数は9,296人と入学定員の約1.2倍。薬剤師国家試験合格者数は時の入学定員を上廻ります。2期を通してみられたこのパターンこそが、続く3期でみられる薬学部急増の起爆剤でした。2004年(平成16)には15万4,255人に達した薬学志願者増加の流れも存在する中、医薬分業を支える重要な社会インフラである「薬局・薬局薬剤師の整備、機能向上」を求める社会要請に対する実質的な対応がなされたのでしょうか。

3期；平成最後の2019年までの約20年間。2003年(平成15)から2008年(平成20)までの6年間には28学部が新設され、入学定員は1万3千人台へ急増します。規制緩和の動き、医薬分業の進展等を受けてのものです。また薬学教育6年制への移行2004年(平成16)法案成立、2006年(平成18)4月施行を受け、薬学教育は大改革を遂げました。しかし、2008年(平成20)の入学定員13,494人をピークとし、以降、定員は抑制的に推移。定員充足率も100%を下回るものとなり、薬学志願者数も大きく変動しました。

ただ、この期の動向等に関しては、薬学部急増と6年制薬学教育導入の影響を、その相互の関連性がゼロとは思えませんが、混同することなく考察すべきと考えます。

○薬学教育6年制へ

薬学教育大改革とでも言うべき大きな変化は、平成年代、21世紀に入って起きました。

学制改革により全大学教育が4年制となりましたが、すぐに医学、歯学教育は6年制に、遅れて獣医学教育も1984年(昭和59)学部6年制に移行しました。

丁度、獣医学教育6年制が取りざたされている頃です。1980年(昭和55)2月に開催された日本薬剤師会代議員会は「学校教育法第55条の但書の改正と、第2項“医学または歯学”に“薬学”を加える運動を起こす。」と

の薬学教育6年制を求める動議を圧倒的多数で採択するなど、6年制薬剤師教育を推し進める動きが日本薬剤師会等を中心に起こります。平成年代に入り、医薬分業が進展し、薬剤師の資質向上を求める動きと連動するものでもありました。

1994年(平成6)には厚生省(現厚生労働省)の「薬剤師養成問題検討会」が「20世紀中には6年制を実現すべき」と提言します。一方、文部省(現文部科学省)の「薬学教育の改善に関する調査研究協力者会議」は、1996年(平成8)「現行の学部4年の年限を延長することは難しく…」との最終とりまとめを公表します。

関係者の合意形成に向けて、いわゆる“4者懇”(1999年より“6者懇”)等による息の長い折衝が続けられることとなります。文部省、厚生省専門家会議が修学年限延長等の検討を加えている時期、「自民党薬剤師問題議員懇談会」(橋本龍太郎(元総理)会長)も6年制導入に向け動き始めます

2001年(平成13)参院選で薬学教育6年制の実現を訴え国政に参画した小生も、議員懇の一員として、2002年(平成14)7月「薬剤師教育検討チーム」の設置を、翌年7月には「意見集約(中間とりまとめ)」を図りました。

①薬剤師養成のためには6年程度の

一貫した教育システムとする。

②研究者養成にも配慮する。

6年制導入に向けての動きが活発化するなか、2003年(平成15)3月開催の参議院決算委員会。薬学教育年限延長問題についての小生の質問に対し、文部科学副大臣は、「これからの薬学教育をトータルとして6年にしようという方向付けは共通の認識となっております。…来年の国会には法案が提出できるように努力したいと…」。

薬学教育6年制が真近になりつつあると感じさせる答弁でした。